

教科名	科目名	単位数	年・組
地理歴史・公民	地理A	2	高1年1, 7～9組

使用教科書	副教材
帝国書院「高等学校新地理A 帝国書院「新詳高等地図」	第一学習社「最新地理図表GEO：初訂版」

1. 学習の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・系統的内容について、世界の様々な地域の特徴や共通点を結びつけて学習する。 ・自然環境について学習し、世界各地と日本における自然環境の差異や、それに伴う生活の違いを理解する。 ・産業に関する内容を学習することにより、世界の様々な地域の特徴や共通点を理解する。 ・グローバル化する現代世界の地理的認識を養い、地理的な見方・考え方を養う。
--

2. 評価内容

1. 関心・意欲・態度	2. 考え方・判断	3. 技能・表現	4. 知識・理解
世界の様々な地域の特徴を学び、現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に迫及する。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、地域性をふまえて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化について考察する。	地図や統計など地域に関する諸資料を扱い、地理的事象を追求する技能（読解力・表現方法）を身につける。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や、その追求の方法を理解し、知識を身につける。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	【大地形】 ・地球のすがた ・大陸移動説 ・プレートテクトニクス ・地体構造	・世界全体から大規模な地形をみると、そこに類似性や規則性が見えてくることを理解させる。 ・世界の大地形の分布、火山・地震などの活動地域の分布などには特徴があること、人の生活との関わりについて世界地図を見ながら整理する。	定期試験 (中間・期末) 授業態度 (意欲・態度・発言等) などから、総合的に評価する。
	5	【小地形】 ・河川がつくる地形 ・海岸地形 ・氷河地形 ・乾燥地形 ・カルスト地形 等	・河川を上流部から河口部までたどりながら、地形の分布と人間生活との関連を整理する。 ・海岸地形やその他の特殊な地形と人間生活との関連について考え、地域開発のあり方や、環境問題との関連を理解する。	
	6	【気候】 ・気候要素 ・気候因子 ・大気大循環 ・ケッペンによる気候区分	・世界の気候が、緯度・隔高度・高度・季節風・海流などによって影響を受けていることを理解する。 ・大気の大循環と緯度による降雨の違いの関係を理解し、それが砂漠や前線の分布に関わることを知る。 ・世界の気候区分の一例として、ケッペンが植生を指標に気温・降水量などを用いて区分した13の気候区について、分布の特徴とその成因について整理する。	
	7	・植生・土壌	・それぞれの気候条件に対する植生・土壌について整理し、地球上の人々の生活は多様だが、その生活や各地の気候条件に対応していることを示す。	
2	9	【農牧業】 ・ホイットルセイによる農牧業区分 ・農産物の流通	・世界の農牧業区分の一例として、ホイットルセイが区分したものを、先進国と発展途上国の農業経営の形態の相違と、生産コスト・収益性の相違との相関を整理する。 ・農業に関する地域的差異を、自然条件だけでなく、文化や経済などから多角的・多面的に捉える。	定期試験 (中間・期末) 授業態度 (意欲・態度・発言等) などから、総合的に評価する。

3	10	【水産業】 ・漁場の条件 ・世界の主な漁場	・水産業がさかんになる条件を自然・社会の両面から理解する。 ・主な漁場を取り上げ、日本と世界各地との類似性や差異を考察し、気候と水産業とが密接に関係していることを示す。	定期試験 (学年末) 授業態度 (意欲・態度・発言等) などから、総合的に評価する。
	11	【資源】 ・エネルギー資源 ・鉱産資源 ・利用の現状	・世界全体からみたエネルギー・原料資源には地域的な多様性があることを理解させる。 ・エネルギー・原料資源を生産量・消費量などから各国ごとに比較させて、その類似性に気づかせる。また、日本の状況をそこから考えさせる。	
	12	【工業】 ・工業発達史 ・立地条件 ・国際化 ・世界の主な工業地域	・産業革命による社会変革が、現代先進工業国の原点であることを理解する。 ・工業の発達要素について理解し、その分布には類似性があることを理解する。 ・複数の工業地域を扱い、それぞれの共通点や差異を比較する。	
	1	【時差】 ・時差の発見・計算	・大航海時代以降、時差が認識された事を紹介し、国際化が進行する中で時差の理解の必要性を考えさせる。	
	2	【交通】 ・陸上交通 (鉄道・自動車) ・海上交通 ・航空交通	・交通の発達によって生じる時間距離の短縮といった長所ばかりではなく、短所も示すことにより、都市部と周辺部の関係を理解する。 ・貿易立国である日本に住む者として、世界各地の航路を理解する必要があることを考える。	
	3	【地図表現】 ・世界地図の特徴 ・新しい地図表現 【消費・余暇行動】 ・余暇活動の多様化 ・消費活動の変化	・世界地図には様々な描き方があるということを知り、用途に応じた地図の利用が大切であるということを理解する。 ・今後の技術発展によって、より高度な情報を地図上で表現できる可能性を模索し、有効な活用方法について考察する。 ・日本と外国の休日の内容を比較し、それぞれの国民性や余暇、仕事に関する考え方の差異について考察する。 ・ライフスタイルの変化にともなう消費活動の多様化に注目し、その特徴と問題点について考える。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。